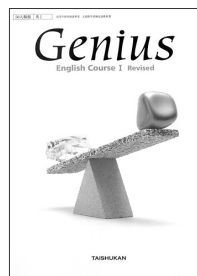


Genius English Course I Revised

生徒に伝えたい、静かで熱い教材

小菅敦子



■あえて新しい教材に

Genius English Course I Revised では、Points in Reading を英語にしたり、Words List を入れたり等、現行版に微調整を加えた箇所がいくつかあるが、大きな改訂のポイントは、5つの新しいレッスンを作ったことである。

特に、初版以来の「戦争・平和」教材である「ルミちゃん（現行版 Lesson 5 “Blowing in the Wind”）」をあえて新しいもの（改訂版 Lesson 4 “Young Victims of War”）に入れ替えたことは大きな変更点である。広島の大原爆で両親を失い、自身もその幼い身体が蝕まれていく様を描いた「ルミちゃん」のような教材は、戦争の悲惨さを訴えるには非常に説得力があり、1人の少女の悲しみが胸を打つ。私も最後まで涙なくして声に出して読むことがいまだにできない。しかし、この教材での戦争は太平洋戦争であり、その悲惨さだけが強調されては、現在を生きている高校生にはどこか離れた世界のことになりかねない。実際、以前は「戦後」と言えば、「第二次世界大戦または太平洋戦争後」のことを言ったはずであるが、今の高校生にとっては「どの戦争の後のこと」かピンとこない。それほど、21世紀になって、かつて私たちが考えていなかった形で世界中のいたるところで戦争が起き、そして、それによって心も体も傷ついている人々、特に子供たちがいるのである。

「このような現実を私たちはどのように受け止めていったらいいのか、そして、この地球上で同じ今という時間を共有する私たちができることがあるだろうか」という視点で、新しい「戦争・平

和」の教材を作成した。具体的にはアフガニスタンやコソボの子供たちを紹介し、その戦争被害者たちに読者である高校生がどのように関わっているか、実際に行われている援助について紹介するものである。戦争被災者への援助というと、すぐに衣食住に関心が行ってしまうが、子供たちの心のケアを考えていくと、必然的に学習の援助や、遊びや芸術、そしてスポーツの面からの援助も必要で、これが意外な盲点となっている。

そして、このレッスンでもっとも注目していたきたいのは、最後の、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんの私たちへのメッセージである。緒方さんは“First, you need to accept them as equals, get to know them, and treat them like any other friend you have. As you get to know the young people who cannot study, or who have had to leave their homes because of war, you can learn from them as they learn from you.”（本文抜粋）と述べ、「助けてあげる」のではなく、「対等な立場で共に生きる」ことを強調している。涙をそそる教材ではないが、明日を担う高校生に、読んで戦争について冷静に考えてもらいたいレッスンである。

■他の4つの新レッスンについて

現行版の Lesson 1 から Lesson 3 の文法事項を新しい2つのレッスンに集約して、読みやすさを考慮しつつも、内容を充実させた。Lesson 1 “The World of Street Performers” では、世界で活躍する2人のストリート・パフォーマー（大

道芸人)を紹介し、ストリート・パフォーマンスの楽しさとその真髄を述べている。写真を多数掲載し、興味ある内容になっているので、入学したての高校1年生にも取り組みやすいはずである。

Lesson 2 “Jamie Oliver — The Naked Chef”では、イギリス生まれの世界的に有名なシェフの生い立ちと料理哲学を紹介する。彼が21歳の時に働いていたレストランをたまたま取材したBBCが彼に目を留め、彼の料理番組を制作した。放送と同時に、その斬新な料理のスタイルに世界中が釘付けとなった。“The Naked Chef”はその番組のタイトルである。イギリスでは、「ベッカムに優るとも劣らない人気の若手料理人」と言われている。彼の食へのこだわりは単に番組のためのパフォーマンスではなく、15人のニートをレストランの料理人に育て上げたり、ファーストフード化していたイギリスの学校給食に一石を投じる等、挑戦は続いている。日本でも彼の料理番組が放送されたりレシピ本が翻訳されたりしているので、彼の名を知っている高校生もいるかもしれない。本教材でその人物像と若きセレブシェフの生き方をさらに深く知ってもらえればと考えている。

残り2本の新教材は、選択的な内容の教材として用意したReading教材である。ストーリー性があり、既習の文法事項のみで読み進めやすいものを用意した。現行版では1本だったものを2本に増やし、1本は新たにレッスンの中ごろに配置し、2本目を巻末に入れた。自分のペースで楽しみながら英文を読み進める機会を生徒にできる限り与えることはとても大切なことで、この2つの読み物がそのような役割を果たしている。特に、Reading 2 “The Vicar’s Pleasure”は、昨年映画化されて話題となった*Charlie and the Chocolate Factory*の原作者であるRoald Dahlの作品を、原作を損なわないように短くしたものである。昨今、教科書からは「文学」の香りが消えつつあるが、是非、そこを味わっていただきたいところである。

■ Genius のこだわりと続行レッスン

続行レッスンは、写真、イラスト、レイアウト等は一新しながら、現行版で好評であったものを残した。特にLesson 5 “Easy Japanese”は、採用校での評価も高かったため現行版から継続したオリジナル教材である。本改訂では最新の情報も増補した。阪神淡路大震災の被災者には、当然、その地で生活する外国人も多数いた。使用言語は英語だけにとどまらず、現地ではそのすべてに対応することは困難を極めた。その時に生まれた発想は、「やさしい日本語を用いて、外国人に安全に避難してもらおう」というものであった。「阪神淡路大震災から10年、その教訓は生かされているのか」とよく言われるが、この「やさしい日本語」については、宮城県北部連続地震や新潟県中越地震では実際に効果的であったという報告があり、これからも注目されるトピックである。

*Genius*では、教科書としての使命を考え、高校生に人間としての尊厳と自然を含めた他者との共生を意識してもらえるような教材にこだわっている。それは、残りの続行レッスンにも共通して言えることである。様々な困難にも負けずに通学するギニアの少女を紹介したLesson 3 “Proud Panther”, Paul Jennings原作の物語Lesson 6 “Pink Bow Tie”, 児童労働を扱ったLesson 7 “Child Labor”, アリの生態の秘密に迫るLesson 8 “Ant Communication”, ボランティア活動の意義を謳ったLesson 9 “My Brother’s Keeper”, 難病をおしてニューヨーク・シティ・マラソンを完走した人を扱ったLesson 10 “I Will Be There for You”等、すべて静かに熱く語られたものである。

さらに、今回は、English on the Webという新規コラムでWeb上のオーセンティックな英語を読ませる教材を3本用意した。これも*Genius*のこだわりである。

(こすげ あつこ・東京学芸大学附属世田谷中学校教諭)